

平成30年度 第2回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：平成30年12月5日（水）15：30～16：45

▼会 場：千歳市役所議会棟2階大会議室

▼出席者

(構成員) 市長	山口 幸太郎
教育長	宮崎 肇
教育長職務代理者	佐々木 義朗
教育委員会委員	荒井 由紀恵
教育委員会委員	橋場 正人
教育委員会委員	吉村 恭子
(事務局) 企画部長	伊賀 宗徳
企画部次長	石田 肅一
企画課長	磯部 進一
企画課企画調整係長	小椋 雄二
企画課企画調整係主任	松本 亮大
(教育部) 教育部長	澤田 徹
教育部次長	千田 義彦
学校指導室長	小松 義幸
企画総務課長	伊藤 樹美
学校教育課長	高橋 裕輔
学校指導課長	佐藤 貢
企画総務課総務係長	田中 稔大
埋蔵文化財センター文化財調査係長	豊田 宏良

▼内 容

○伊賀企画部長

本日は、お忙しいところお集まりいただき誠にありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます企画部長の伊賀でございます。よろしくお願い致します。

ただいまから、平成30年度第2回千歳市総合教育会議を開催致します。それでは、ここで山口市長からご挨拶をお願いいたします。

○山口市長

皆さん、こんにちは。

ただいま企画部から紹介がありました通り、本年2回目、通算で8回目となります総合教育会議を始めさせていただきます。皆さま方には色々と教育行政に関してご指導をいただきましてありがとうございます。

千歳市の教育基本計画の理念の中には、毎回皆さんと一緒に議論をしている柱であり、確かな学力・豊かな心・健やかな体、この3つの柱を充実させるべく、教育委員の皆さまと議論を重ねているところでありますが、前回は家庭における学習環境の向上、そして子供たちの生活習慣の改善をテーマにさせていただきました。毎回、時宜に即したテー

マで話し合いをさせていただいていますが、市長部局としても大変有意義な会議であると感じています。今日もまた皆さま方からの忌憚のないご意見をいただき、この総合教育会議を偏に有意義なものにしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

○伊賀企画部長

ありがとうございます。ここからは、議長である山口市長が進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○山口市長

それでは、次第にありますように、議題として平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果についてと、世界遺産の推薦候補であります「北海道・北東北の縄文遺跡群」についての説明、並びにこのことに関しての懇談を始めたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

まず初めに、平成30年度の全国学力・学習状況調査の結果について、教育委員会から説明してください。

○小松学校指導室長

学校指導室長の小松と申します。私からご説明させていただきます。

お手元の資料1「平成30年度全国学力・学習状況調査の結果概要」をご覧ください。

(「平成30年度全国学力・学習状況調査の結果概要(資料1)」について説明。)

○山口市長

ただいま事務局から説明のあった課題について意見交換をしたいと思いますが、特に何についてということはありませんので、全体を通じて感想や意見をお持ちでしたらお願い致します。

○吉村委員

小学校の国語についてですが、話すことはできるが読むことや書くことに課題が見られるとのことでした。学校では読書の時間を設けていると聞いていますが、家庭での読書時間が少ないことが関係しているのかと思います。

○山口市長

新聞を読む習慣が特に低いことも結果として出ているようですが、このことについて分析はしていますか。

○小松学校指導室長

学校では、朝読書の時間や図書ボランティアによる読み聞かせを行っていますが、家庭での読書の形については、小学生では10分以上本を読むこと、中学生であれば新聞を読むことなどが学力向上につながっているようです。今後については、教育委員の皆さんにも家庭生活宣言をしていただいております、様々な角度からそのような働きかけを、学校、家庭、教育委員会が連携して行っていきたいと考えています。

○山口市長

読書や新聞を読むことを習慣づけることには、どのような意図がありますか。

○小松学校指導室長

読書と学力の関係については、文部科学省の調査においても、全ての時間を勉強に費やすより、いくらかの時間を読書に割いた方が学力において高い結果が出ています。あるいは、学力が高い児童の特長の中に、家庭での読書や読み聞かせの時間があることも含まれているため、読書や新聞を読む習慣づけが必要ではないかと考えています。

○山口市長

読書することによって字を覚えるとか、語彙が増えるとか、文章の理解が早くなるとか、社会的知識が身につくとか、そういった意図はあるのですか。

○小松学校指導室長

まずは語彙力、理解力を高めること、併せて創造性や感受性を豊かにすること、集中力を高めることなどにもつながると考えています。

○山口市長

それでは、漫画などはどうですか。

○小松学校指導室長

漫画も一つの読書の材料ではありますが、やはりできれば物語などを読む方が、より子供たちの能力を高めるのに適していると思います。

○山口市長

ということですが、どうですか。何かご意見はありますか。

○橋場委員

資料の14ページにもあるように、本や新聞を読まないとのことですが、うちの子供もそうなのですが、今はスマートフォンや電子辞書でもニュースなどを見ることができますし、持っている方はどうしても機会が少なくなってしまうと思います。ただ、やはり本のページをめくってストーリーを想像しながら読むのと、画面をスライドするのでは、脳に与える影響も違うと思うので、是非本を読んでほしいと思います。

○山口市長

どのような本が良いのでしょうか。

○吉村委員

創造性を豊かにするとすると、小説なども良いのではないのでしょうか。自分たちが若いころも読むように言われました。一度読みだすと、同じ作家の本をまた読みたいとなった記憶があります。

○佐々木教育長職務代理者

新聞の話ですが、いまは新聞を取っている家庭が少ないことが原因でもあると思います。しかし、新聞やスマートフォンで得られる知識というものは、特に中学生にとっては、今の世の中がどうなっているのかを知る上で必要なものだと思います。

また、先ほど市長から漫画はどうかとの話がありましたが、確かに読解力をつけるためであれば、もしかすると漫画でもよいのかもしれませんが、算数にしても何にしても、まず問題を読んで把握することが必要なもので、やはり読むということが大事なのではないのでしょうか。

○山口市長

確かに、習慣づけが大事なのでしょうね。なぜ漫画について聞いたかという、今年か去年に話題になった作品で、「君たちはどう生きるか」という少し難しい本がありましたが、こういうものは、逆に漫画の方が、エッセンスが入っていて分かり易いような気がするのですが、その辺りはどうですか。

○吉村委員

歴史ものも漫画などはとても分かり易いものもありますね。歴史の先生は、そういうもので良いから、まず読みなさいと指導しているようです。

○宮崎教育長

漫画は確かに理解しやすいという意味では、絵があって文章も短くて良いのですが、やはり長文を読んで、この人は何を言っているのかとか、どんなことを書かれているのかを理解する能力、いわゆる読解力が大事になります。どんな本でも新聞でも、分からなければ繰り返し読み返すことが出来ますが、テレビなどでは一度見て終わりなので、そこは大きな違いだと思います。全国学力・学習状況調査についても、来年から一つになりますが、先ほどの説明もあったように、今年も長文が出ました。A問題は従来長文が少なく、計算すればすぐできるものが多かったのですが、今後は長文をまず読まなければいけなくなります。そうすると、読んでいる途中で何が書いてあるのか分からず嫌になってしまう、ということが起こり得ます。算数の問題なのに、読解力がないと答えまで辿り着けないということが懸念されますので、やはり読解力が大事になります。

また、AI（人工知能）についてですが、国立情報学研究所の新井紀子という先生が現在のAIについてこんな話をしています。「AIが一番不得意なのは、文章の意味を理解することである」。今ある仕事の半分程度がAIに取って代わられるのではないか、という話がされている中でも、読解力があればAIに勝てるということも言われています。そのような点からも、読解力を高めるために本や新聞を読むことは大事なのだと思います。

○山口市長

新聞を取っていない家庭にとって、それに代わるものは何がありますか。

○小松学校指導室長

学校で言えば、子供新聞などがありますし、図書室に新聞を置いていますので、読むことはできます。また、授業の中で新聞を取り入れている学校などもあります。

○山口市長

ただ、新聞にはそれぞれ論調というものがありますから、どの記事をどの新聞で読ませるかというのは、難しいところですね。

○吉村委員

高校などでは随分前から新聞活用は行われています。使い方は色々あると思います。

○宮崎教育長

何を言っているか理解するのであって、その人が言っていることに納得するかどうかはまた別の話だと思えます。読解力があれば、この人はこんなことを言っているが、私はこの考えには賛成できない、ということになっていくのだと思えます。まずは理解することが出来なければ、次の段階として批判的な目線や自分の意見というものが出てこないのではないかと思います。

○山口市長

幼児教育においては、絵本も大事な要素だと思います。来年度も推進していくようなので、我々も応援していきたいと思えます。

しかし、我々も以前に比べて新聞を読まなくなった気がします。

○荒井委員

最近縦書きの文章に触れる機会自体が減っている気がします。新聞などは縦書きの上、教科書のようにきれいに並んでいるわけではないので、読みづらいと感じるのかもしれない。

○山口市長

そういう意味では、トレーニングにもなりますね。

○佐々木教育長職務代理者

最近電車の中などで新聞を読む方はほとんど見ません。スマートフォンを見ている方ばかりです。

○荒井委員

昔は、子供たちはテレビ欄を見るところから新聞に触れる機会があったと思いますが、最近テレビの番組表で確認できるのでそういう機会もなくなってきていますね。

○山口市長

そうですね。他にご意見があればどうぞ。

○荒井委員

昨年度は小学生の数学が全国平均を上回っていたようですが、今回はあまり良い結果ではなかったとのことです。今回は千歳の子供たちが得意な計算問題が少なかったことが影響しているとのことで、やはり問題を読んでそれを理解する能力が重要なのだと感じまし

た。それをいかに身につかせるかだと思います。

○山口市長

これはどの教科でもこのような傾向なのですか。

○小松学校指導室長

はい。例えば算数においても、単に知識を身につけるだけではなく、文章を読み取ったり、あるいはグラフや表から情報を読み取ったりして問題を解いていくような授業を進めています。

○荒井委員

特に中学生においては、記述問題の正答率が低いというの也有ります。これは読解力だけではなく、それを自分なりに文章に表す証明問題などが苦手なのかなと思います。

○山口市長

数式を解くことはできても、なぜその数式になるのかが理解できないということでしょうか。

○小松学校指導室長

はい。

○佐々木教育長職務代理者

そういった意味では、書くということも重要だと思います。千歳は電子黒板などの整備状況が道内でもトップクラスだと思いますが、私たちから見てもまるで手品のように思えて、子供たちも関心を寄せているように思います。板書もきちんと写しているようで、導入当初よりうまく活用できているように思います。最近は年配の先生方もほぼ100%使いこなせているようですし、改めて板書の重要性を感じます。

○小松学校指導室長

I C T機器の活用においては、板書も重要視しています。

○佐々木教育長職務代理者

電子黒板は、自分たちの時代にあったら面白かったらうなと感じます。子供たちも興味を持てると思います。もう少しすれば当たり前になるのかもしれませんが。

○吉村委員

全市で活用されていることは素晴らしいことですね。

○佐々木教育長職務代理者

ここまでI C T機器が整備されているところはそう多くありませんから、素晴らしいことだと思います。あとは結果がついて来ればよいのですが。

○宮崎教育長

板書の必要性は電子黒板を導入するときから十分認識をしていましたし、課題やまとめの提出、しっかりノートを取らせるということ、改めてしっかり行うようにしています。黒板と電子黒板をうまく使い分けて、うまく進められているのではないかと思います。

○山口市長

昔はよくノートを提出するというのがあって、自分なりにどうノートを整理するかというのが評価の対象になっていました。写すだけではなくて、自分なりに理解してノートを作ることが必要なのだと思います。

○小松学校指導室長

板書については、まず先生方が自分の授業を構想することに役立つことと、いま市長がおっしゃったようにノート指導に直結するので、自分なりに理解する上で重要ですから、ICT機器の活用と併せて、力を入れています。

○宮崎教育長

先生方もノートチェックは行うようにしています。特に小学校ではやっています。それもまた大変なのですが。

○山口市長

次に、子供と先生方の意識にギャップがあるという話がありましたが、これはどういうことですか。

○小松学校指導室長

先生方は、学力向上の取組を積極的に進めていると考えていますが、授業を受けている生徒はそのように感じ取れていないという、意識の差があるのだと思います。

○吉村委員

小学校では、習熟度別の指導については少しずつ効果が出てきていると思います。中学校においても学習支援員による指導を充実させていけば、効果が表れるのではないかと思います。やはり同じ教室の中で習熟度に違いがありすぎると、指導する先生も大変だと思いますので、支援員さんの力を借りるためにも、人員確保をお願いしたいと思います。

○山口市長

基礎がわからないとどんどん遅れが広がってしまいますね。

○吉村委員

正直、高校にも九九がわからない、漢字が読めないという生徒が入学してくるような状況もあり、高校でそのような指導をすることもあります。是非とも、改善をお願いしたいと思います。

○山口市長

では、次の議題である世界遺産の件について、ご説明をお願いします。

○千田教育部次長

教育委員会教育部次長の千田です。私から、世界遺産推薦候補「北海道・北東北の縄文遺跡群」についてご説明させていただきます。スクリーンの内容はお手元の資料と同じものとなっております。

(世界遺産推薦候補「北海道・北東北の縄文遺跡群」についてパワーポイントを用いて説明。)

○山口市長

いま説明にもありましたように、あと何年間かは粘り強く申請をしていかなければならないかと思います。また、登録を受けるまでも相当手厚く見守っていかなければなりませんし、その後も保存をしていくということは大変なことだと思います。そのためには、行政の力がメインにはなりますが、みんなが理解をもって守っていく意識がなければ難しいと思います。そのためにも、機運を盛り上げていくことが大事になります。では本題に入りますが、まず準備の段階で、市民に対するPRや啓発はどのようなことを行っていますか。

○千田教育部次長

今回推薦候補に選定されたことを受けて、市役所庁舎に懸垂幕を掛けたり、千歳駅前に横断幕やパネルを設置したり、作成したのぼりの設置や広報ちとせへの掲載などにより、市内に対するPRを行っています。また、4道県で構成する協議会においても、統一したパンフレット等を作成しており、今後は統一したパネル等を作成する予定としています。

○山口市長

子供たちに対して、社会見学のコースに設定したり、このための時間割を作ったりはしているのですか。

○豊田埋蔵文化財センター文化財調査係長

特に指定しているわけではありませんが、各小学校において社会見学の一環として、埋蔵文化財センターの職員が説明員として随行したうえで現地の見学を行ったり、埋蔵文化財センターで展示室を見学したり、火おこしなどの体験学習を行っています。

○山口市長

世界遺産に登録されたからと言って遺跡の原型が変わるわけではないので、今のままでも価値があるものとして広めていくということは大切ですね。

○佐々木教育長職務代理者

いま市長がおっしゃったように、私たちも含めた市民が理解を深めることが重要だと思います。千歳市にこんな歴史的なものがあるということを理解しなければいけませんし、

自分の商売でいうと観光にとっても重要なものだと思います。最近の観光では、ぼんやりしたものではなく、テーマを決めて見に行くというものが多くなってきています。例えば支笏湖でも、山線鉄橋が北海道の土木遺産に選ばれて、先日も40名ほどのツアーの方がいらっしゃいました。こういった歴史に関するものにもそういった価値があるのだと思います。その反面、たくさん人が来ることで史跡が破壊されるようなことがないように、対策は考えないといけません、まずはこの歴史を後世に残していけるようにしていただきたいと思います。

○山口市長

この縄文遺跡群は全部で17か所もあるわけですから、17か所を巡るツアーなども良いかもしれませんね。

○佐々木教育長職務代理者

先日教育長と話をしたのですが、釣り針一つを見ても、返しがついたのはいつからなのかなど注目してみると面白いと思います。

○宮崎教育長

函館市の垣ノ島遺跡に行った際に、動物の骨を用いた釣り針の展示があり、そこには返しがついていました。一万年ほど前のものだったと思います。基本的な構造は今と変わりません。変わったのは材質が金属になったことくらいです。

○山口市長

その当時からそのような技術があったということですが、いつも疑問に思うのが、なぜ縄文時代は一万年も続いたのですか。

○宮崎教育長

当時、欧州などでは作物を育ててそれを食料としていましたが、日本では魚や貝、動物をとって食べるような生活様式がずっと続いていました。

○山口市長

一万年もあればもっと技術などが進歩しそうな気がします。

○佐々木教育長職務代理者

恐らく、そのままでも食べることに困らなかったのではないのでしょうか。

○豊田埋蔵文化財センター文化財調査係長

それだけ豊かな土地であったということかと思います。先ほど釣り針の話がありましたが、返しの他にも材質の組み合わせなども工夫があります。また、対象魚種によっても使い分けがあったようです。そのように、使用する道具の中に進歩は見られています。

○佐々木教育長職務代理者

こうやって話しているだけでも、遺跡の話というものは大変興味深いものだと感じます。

○山口市長

縄文時代の道具はどんなものがありますか。

○豊田埋蔵文化財センター文化財調査係長

最初に生まれたのは土器です。それまでは石器が用いられてきました。

○山口市長

随分ゆっくりとしているんですね。

○宮崎教育長

今とは時間の感覚も違うのだと思います。

○澤田教育部長

同時期のエジプトなどではピラミッドが建設され、豪華な装飾を施した装具などが作られていたなか、日本では狩猟による生活様式が続いていましたというのは、それだけ豊かで生活に困っていなかったのか、一定程度の工夫で生活していたのではないかと思います。

○山口市長

エジプトでいえば、あの巨大な石材を積み上げる技術があったということですが、そのような技術がこの一万年の間に、自然発生的に生まれなかったのでしょうか。

○宮崎教育長

先ほど部長が言ったように、必要がなかったのでしょうかね。

○豊田埋蔵文化財センター文化財調査係長

キウス周提墓群については、縄文のお墓の中でも、ある時代にこの千歳にだけできたお墓の形態であり、日本でここしかない非常に特殊なものです。

○山口市長

まず、現地を見ていただくことが大切ですね。

○宮崎教育長

前の教育委員の皆さんには、一度道内の遺跡を回っていただきましたので、来年あたりにまた見ていただくのは良いかもしれません。

○佐々木教育長職務代理者

キウス周提墓群の規模の大きさについては、他の遺跡を見て初めて気付かされました。

○橋場委員

私もいつも仕事で横の道を通っています。最近台風による倒木も見られますが、千歳は空港もあるので、観光地としての立地も良いと思います。今後は、現地で説明できる方

がいると良いと思います。説明が得意な方は高齢の方が多いかもかもしれませんが、若い方の中にも好きな人はいるのではないかと思います。公募なのでボランティアを募るのも良いかもしれません。

○宮崎教育長

やはりまずは、縄文文化というものを理解しなければ、キウス周提墓群も他の遺跡群も正しく理解できないのではないかと思います。縄文文化をどのように市民の皆さんに理解していただくかということも考えなければいけません。

○佐々木教育長職務代理者

いま、「私たちの千歳」（社会科の授業で使用する副読本）では、どの程度ページを割いているのでしょうか。

○澤田教育部長

1、2ページだと思います。

○佐々木教育長職務代理者

先ほど市長がおっしゃっていたような疑問を、子供たちも持っているかもしれませんね。

○荒井委員

私たちが子供のころには習っていないですね。

○佐々木教育長職務代理者

世界遺産自体もそこまで古いものではないので、習っていないでしょうね。

○山口市長

まずはその価値を広めなければいけませんね。

○佐々木教育長職務代理者

写真を撮る方もいますが、カードを用意しても良いかもしれません。ダムカードなどを集めている方もいますので、遺跡カードを集めるなど、何らかの目的を持って観光に来ていただく事が必要かと思います。

○山口市長

では、まずは登録に向けた普及活動を進めることと、登録された際には直ちに観光客に対応できるような準備を進めなければいけませんね。

○吉村委員

学校への活用についてですが、私は以前に縄文遺跡が話題になった10年ほど前に洞爺におりましたが、そこでは新任の教員が辞令交付式後に、周辺の史跡や観光地を見学し、授業に活用するというをやっていました。そういった形でルートを提示すれば、学校としても活用しやすいのではないかと思います。

○山口市長

いまは新入職員向けに視察コースなどは組まれているのですか。

○石田企画部次長

市内の施設や企業を回ってはいますが、キウス周提墓群については含まれていないかと思えます。

○吉村委員

津別町でも、高校生に対して市内の観光名所や企業を見学させる等の取組を行っていましたので、地元への理解を深めるのに有効な手段だと思えます。

○山口市長

千歳でも「千歳を知る会」がボランティアでそのような取組を行っていると記憶しています。そこではキウス周提墓群も含まれています。

この機会に、他に何かご発言はありますか。

○吉村委員

ここ最近、千歳高校が企業とタイアップした様々な商品開発等を通じて食育に取り組まれています。小中学校の給食について、規定が変わったこともあり色々大変かとは思いますが、地元の食材を使った料理などを提供することで、子供たちの地元への定着にも有効なのではないかと思えます。

○山口市長

メニュー作りの一案として考慮させていただきます。

では、以上を持ちまして議題については終了させていただきます。

○伊賀企画部長

本日は議論をいただきましてありがとうございました。事務局からの連絡事項をお伝えいたします。

今年度の会議につきましては、本日をもって終了となります。来年度の会議につきましては、第1回の会議を5月頃に、第2回の会議を11月頃に開催予定です。この他、緊急的に開催が必要な場合につきましては、随時開催致しますのでよろしくお願い致します。

以上を持ちまして、平成30年度第2回千歳市総合教育会議を終了させていただきます。大変お疲れ様でした。